

スウェーデン在住日本人の生活と高齢者対策

信州大 ○ 草野篤子 創価大 西村洋子 介護カウンセラー 沢野正美

【目的】 この研究は、第一にはスウェーデンに住む日本人の生活の実状を把握し、今後の高齢者対策を調べることに、第二には、数年後を目的として「日本人セニオールクラブ」がスウェーデン政府の政策の下に民間委託経営で、日本人及びその配偶者が老後の生活ができる「日本人高齢者ホームセンター」を設立する企画を通してスウェーデン在住日本人の置かれている事情を明らかにすることを目的とする。この「日本人高齢者ホームセンター」は、営利を目的としたものではなく、スウェーデンに居住する日本人の老後の問題解決と対策、処置として考えられているものである。

【方法】 1994年2月-3月にかけて、「日本人高齢者ホームセンター」を設立することを目的として、沢野正美が中心になって行った「スウェーデン在住日本人実態調査」の調査結果を、主に分析、考察することによって行った。調査対象者は合計で274名、その内男性90名、女性184名）。質問内容は、WHO (World Health Organization) Aging in the Western Pacific の資料に基づいて作成、それに一部追加をしたものである。

【結果】 老後の生活に対する希望：子供にみてもらう(0.0%)、自活できる内は自宅生活(51.8%)、最後まで自宅生活(12.0%)、老後は日本で生活したい(7.7%)、ホームセンターに入居(9.9%)、考えていない(18.6%)。将来ホームセンターに入居が必要になった時の希望：スウェーデン人や他国の人と一緒(10.9%)、スウェーデン人とのみ入居(1.5%)、可能なら日本人センターに(29.2%)、いずれでも構わない(18.2%)、分からない(35.8%)